



病院看護師 介護施設に

「お元氣そうですね」

山形県酒田市の介護老人保健施設「うらら」で、看護師の〇〇さんがショートステイ(短期入所)の利用者の男性に声をかける。

〇〇さんは、昨年10月から今年9月までの1年間の予定で、同市の日本海総合病院から出向中。たんの吸引や点滴など医療的な処置を行っている。男性は、同病院で治療を受けて退院後、うららでの療養を経て

自宅に戻った。今は、ショートステイを利用して来ている。〇〇さんは「うららに来て初めて、入院から在宅復帰まで切れ目のない支援が行われていることを実感できた」と話す。

同病院から、うららや近隣の病院に今年度計6人の看護師が出向している。日本海総合病院は、590の病床を有し、同市と鶴岡市を中心とした庄内地域の中心核病院。看護師の派遣は、

地域の医療・介護の支援が目的だ。

出向経験のある同病院主任看護師の〇〇さんは「看護師としてキャリア

入所者最高齢の104歳の女性(右)の血圧を測りながら、生活に必要な支援を確認する。〇〇さん(山形県酒田市で)

の幅が広がった」と語る。現在、入院患者の退院支援を担当。介護職と連携し、再入院を防ぐための課題の確認などを行っている。

庄内地域の人口は約25万人。2040年には19万人に減ると見込まれている。高齢化率は現時点で4割に迫る。

地域で必要な医療が、手術や入院の急性期から在宅に移行する中、病院や高齢者施設は、慢性的な人材不足に悩まされている。これらの病院や施設が立ちゆかなくなると、日本海総合病院に入院した患者は、退院後の受け皿がなくなり、行き場を失ってしまう。

そこで、同病院を運営する山形県・酒田市病院機構は18年、酒田市とその周辺で高齢者施設や病院などを運営する8法人と地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」を設立した。

「競争より協調」を理念に、同ネットに参加する病院間で、重複する診療機能の重点・集約化を進めている。

例えば、人工透析の患者を日本海総合病院から民間の病院に移し、増えた患者に対応する看護師を派遣する。当直医の派遣や在宅往診の応援にもあたる。高額な医療機器は共同で利用している。参加法人は14に増えた。

地域医療連携推進法人の制度は、地域の医療・介護を持続可能な体制とするため、17年に厚生労働省が創設。今年1月現在で全国に45法人あり、同ネットは先駆的な存在だ。

同機構理事長の島貫隆夫さんは、同ネットでのさらなる連携強化に向け、医療機関と高齢者施設の間でICT(情報通信技術)を活用した服薬情報の共有なども進めている。「介護現場では利用者が使用している薬の情報が欠かせない。利用者にとっても安全安心につながる」と話す。